

## 分娩直後の母親の行動と母子相互作用

野村紀子(北里大学病院)  
○島田信宏( )

### “分娩直後の母親の行動と母子相互作用”の 今後の展望

上記のテーマによって、分娩室での母親と新生児との、初回対面時に、母親の行動パターンに、2種類あるという事実に気づいたことが、今回、この研究にとりかかる動機であった。しかし、この研究にとりかかる準備は、決して十分ではなく、マタernal・アタッチメントに関する文献もないことから、我流による調査表によって、調査にとりかかった。調査件数は、1,000例以上を目標としたが、結果は、800件数にすぎなかった。時期的にも、目標の1,000例にみたないまま、調査期間を終了しなければならなかった。調査を終了し、“まとめ”の段階で、なお、2~3の疑問を持たざるを得なかった。また、この調査から、さらに発展させ、今後の課題にする必要のあることを痛感する。

今回のこの研究は、第1回目の研究でもあり、分娩直後の母親が、その新生児との初回対面時に、“ふれるか”、“ふれないか”との母親の行動パターンの比率をみることを、第1の目的とした。次に、“ふれる母親”と“ふれない母親”との間に、どのような特長があるか、否かをみることを、第2の目的とした。

結果としては、“ふれあい母親”は、全体の78%を示し、22%の母親が、“ふれない母親”で

あることが明確になった。しかし、第2の目的である、“ふれる母親”と“ふれない母親”との間に、著しい特長をみることはできなかった。“新生児にふれる母親”の傾向として、義務教育以上の学歴を有する母親で、かつ、妊娠、出産に対して積極的な姿勢のあることが、認識されたにすぎない。

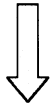
今後は、

- (1) 調査件数を、1,000件以上とすること。
- (2) “ふれる母親”と、“ふれない母親”との年齢別比較。
- (3) “ふれる母親”と、“ふれない母親”について、それぞれ、年齢。学歴。希望として妊娠したかどうか。妊娠中の乳房の手当ての有無。初回対面時間。分娩様式や麻酔の種類などについての調査。

また、ボウルビイの説にもあるように、母親の行動は、母親自身の本能的行動によるものではなく、新生児の行動(表情)によって、それぞれの母親が行動を起す因子となる。

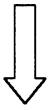
- (4) 新生児の表情(睡眠中、レム睡眠、泣いている、目を開けている、など)の状況と、その時の母親の行動とを比較する。

マタernal・アタッチメントに関する文献は、十分でないこともあり、研究を進めるについての難解さを感じるが、以上の4点について、今後の研究課題としたい。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



“分娩直後の母親の行動と母子相互作用”の今後の展望

上記のテーマによって、分娩室での母親と新生児との、初回対面時に、母親の行動パターンに、2種類あるという事実に気づいたことが、今回、この研究にとりかかる動機であった。しかし、この研究にとりかかる準備は、決して十分ではなく、マタernal・アタッチメントに関する文献もないことから、我流による調査表によって、調査にとりかかった。調査件数は、1,000例以上を目標としたが、結果は、800件数にすぎなかった。時期的にも、目標の1,000例にみたないまま、調査期間を終了しなければならなかった。調査を終了し、“まとめ”の段階で、なお、2~3の疑問を持たざるを得なかった。また、この調査から、さらに発展させ、今後の課題にする必要のあることを痛感する。